

八代市立図書館

運営方針

平成 24 年 2 月

	目	次
* はじめに	· · · · ·	P 2
* 八代市立図書館の現況	· · · · ·	P 3
1 入館者数	· · · · ·	P 3
2 図書の貸出冊数	· · · · ·	P 3
3 図書の予約・リクエスト数	· · · · ·	P 4
4 藏書数	· · · · ·	P 4
5 レファレンスサービス数	· · · · ·	P 5
6 図書の購入冊数と予算	· · · · ·	P 5
7 平成23年度図書館の自主事業	· · · · ·	P 6
I 基本方針	· · · · ·	P 7
II 運営方針	· · · · ·	P 8
1 郷土を拓く人を育む図書館	· · · · ·	P 8
(1) 読書活動の推進		
(2) 学習機会の提供		
(3) 調査研究資料の提供		
(4) 子どもの読書活動の推進		
2 市民のニーズに応える図書館	· · · · ·	P 9
(1) 利用機会の充実		
(2) 藏書の充実		
(3) レファレンス資料の充実		
(4) 遠隔地サービスの提供		
(5) 他図書館との連携サービスの提供		
3 八代の文化を支える図書館	· · · · ·	P 10
(1) 文化創造機会の提供		
(2) 各館（本館・分館）毎の特色あるサービスの提供		
(3) 文化団体と連携したサービスの提供		
(4) 博物館・文化まちづくり課・図書館の連携による 資料提供サービスの充実		
4 市民協働による図書館	· · · · ·	P 11
(1) ボランティア団体等の活動の支援		
(2) 市民協働による図書館サービスの提供		
(3) 自主事業への市民参加		
(4) 図書館運営への市民参加		

はじめに

八代市立図書館は、大正13年に旧八代町立公会堂の一角に、八代町立図書館が設置されて以来、幾つかの変遷を経て、昭和60年6月に、市民の教育と文化の発展に寄与する生涯学習の場として、北の丸町に新築移転されました。

また、かがみ図書館は、平成11年4月に鏡町内田に、せんちょう図書館は、平成16年4月に千丁町大字新牟田に、各自建設され、開館しています。

また、平成17年には、1市2町3村による市町村合併が行われ、旧千丁町の「せんちょう図書館」及び旧鏡町の「かがみ図書館」を分館として位置づけ、全館で35万冊の蔵書を有する図書館となりました。

さらに、平成20年からは、住民基本台帳と図書館システムをオンライン化し、本館と分館の貸出サービス等を統一的に運用できる新図書館システムの導入によって、市民サービスの向上を図り、先進的な図書館として、現在に至っています。

しかしながら、施設や設備の機能面のみならず、図書館サービス自体も社会環境の変化や市民ニーズの多様化に即した見直しが必要になっています。

さらには、昨今の公共図書館を巡る状況は、地方分権の進展や行財政改革の推進に伴い、予算や人員の削減など運営が難しくなる一方で、地域の情報源としての高度な利用や、市民活動の拠点としての役割を期待されるなど、大きく変化してきています。

こうした状況を踏まえ、13万人都市・八代市として、市民のより身近な生涯学習の中核施設としての図書館づくりや市民の諸活動を活性化する基盤としての図書館づくりが急務であると考えています。

そこで、平成22年9月21日に八代市図書館協議会へ、今後の八代市立図書館のあり方について諮問し、平成23年1月5日に答申を頂いたところです。

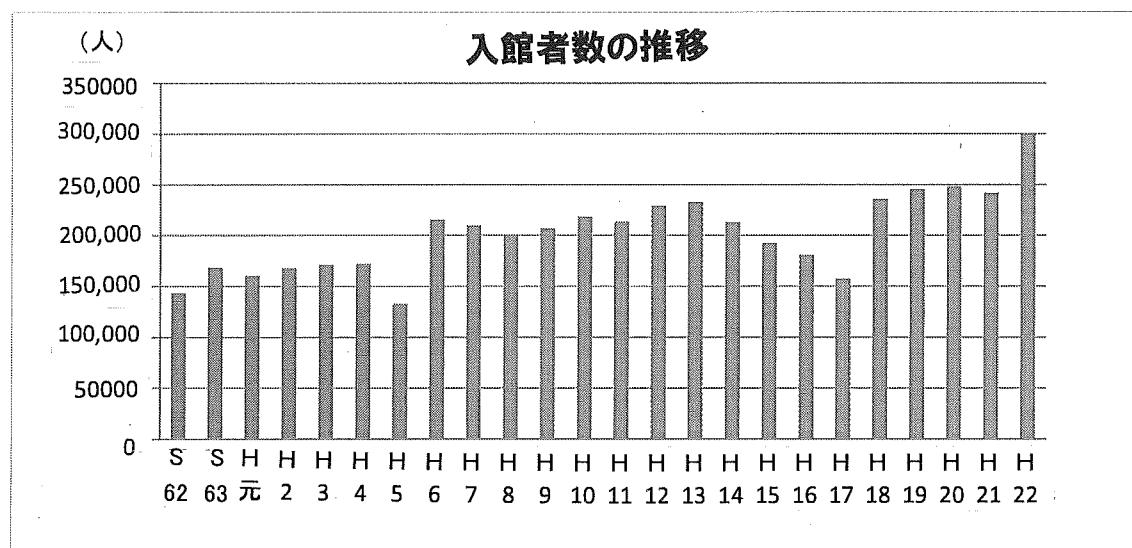
本運営方針は、その答申をもとに、上記の状況を踏まえながら、今後、おおむね5年間の実施期間を目途に、更なる市民サービスの向上を目指して、策定したものです。

* 八代市立図書館の現況

1 入館者数

本図書館の入館者数は、昭和62年度の143,000人から平成22年度の30万人へと倍増しています。ここ10年間を見てみると平成13年度から平成17年度までの5年間は減少していますが、平成18年度から平成22年度までの5年間は、ほぼ増加しています。

年間入館者数30万人は、熊本県立図書館の288,000人（平成20年度）を上回る数であり、1日平均、約1,000人の入館者数となっています。

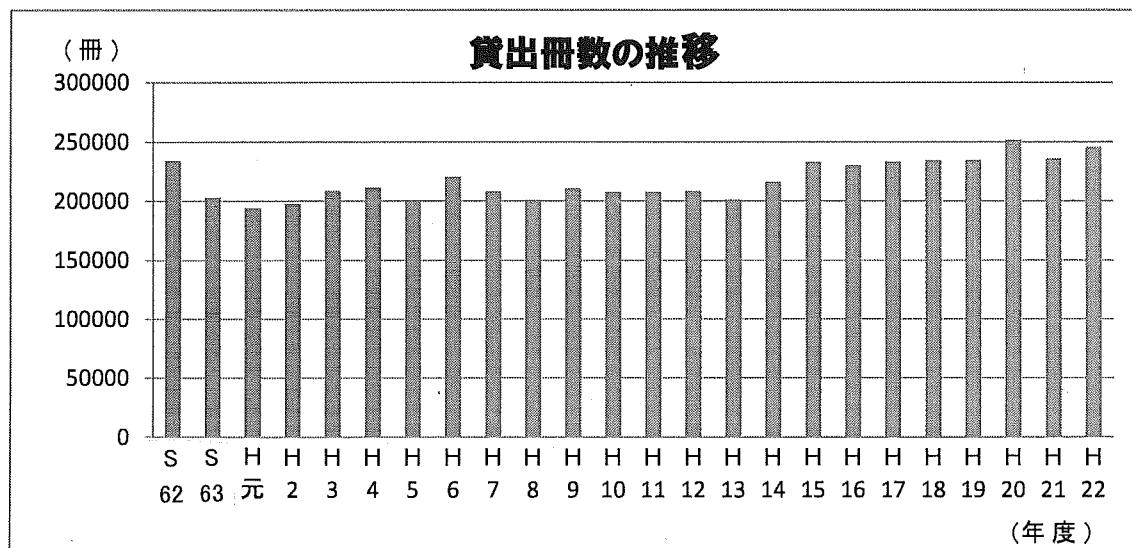


【本館のみ】

2 図書の貸出冊数

貸出冊数は、平成元年度の19万冊から平成20年度の25万冊の間に推移しており、昭和62年度から平成13年度までは、ほぼ横ばい傾向にあり、平成14年度から平成22年度までは、増加傾向にあります。

さらに、平成18年度から平成22年度までの5年間における貸出冊数の推移は、入館者数の推移と同様に、増加傾向にあります。



【本館のみ】

3 図書の予約・リクエスト数

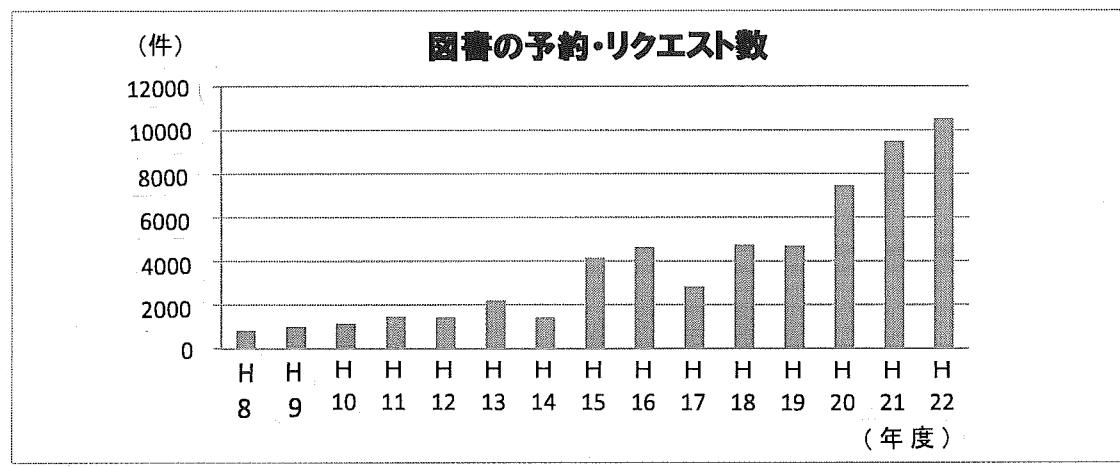
予約・リクエスト数は、平成8年度の826件から平成22年度の10,515件まで、ほぼ右肩上がりで、増加しています。

この予約・リクエスト数の内容は、窓口及びWeb（インターネット）での予約とリクエストを合わせた数となっています。

【参考】**予約**：図書の借用予約のこと。

リクエスト：要望に応じ新規購入や他の図書館から借用して貸出すること。

特に、平成20年度の三館（本館、分館）統合図書館システムの導入後は、Webによる予約及びリクエスト数が、急激に増加しています。



4 蔵書数

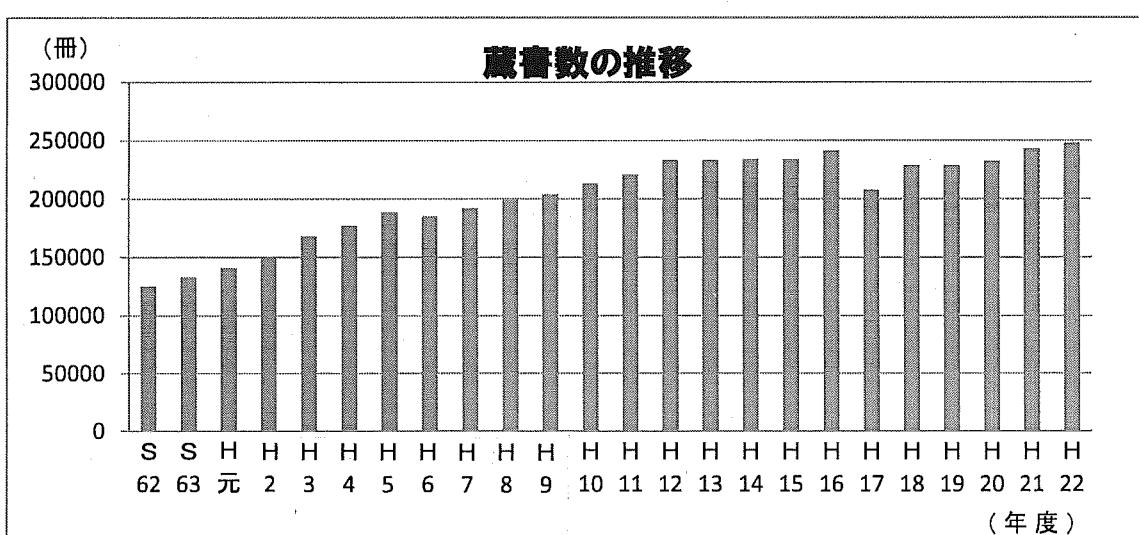
蔵書数は、昭和62年度の125,000冊から平成22年度の約248,000冊へ、ほぼ右肩上がりで増加しています。

平成17年度に、蔵書数が一時的に減少しているのは、市町村合併時に蔵書を整理し、除籍したためです。

現在では、せんちょう分館の約50,000冊とかがみ分館の約50,000冊を合わせると、約35万冊の蔵書となります。

また、年間約14,000冊の新規購入をしていますが、蔵書スペースの関係もあり、今後は、あまり増加しないものと見込んでいます。

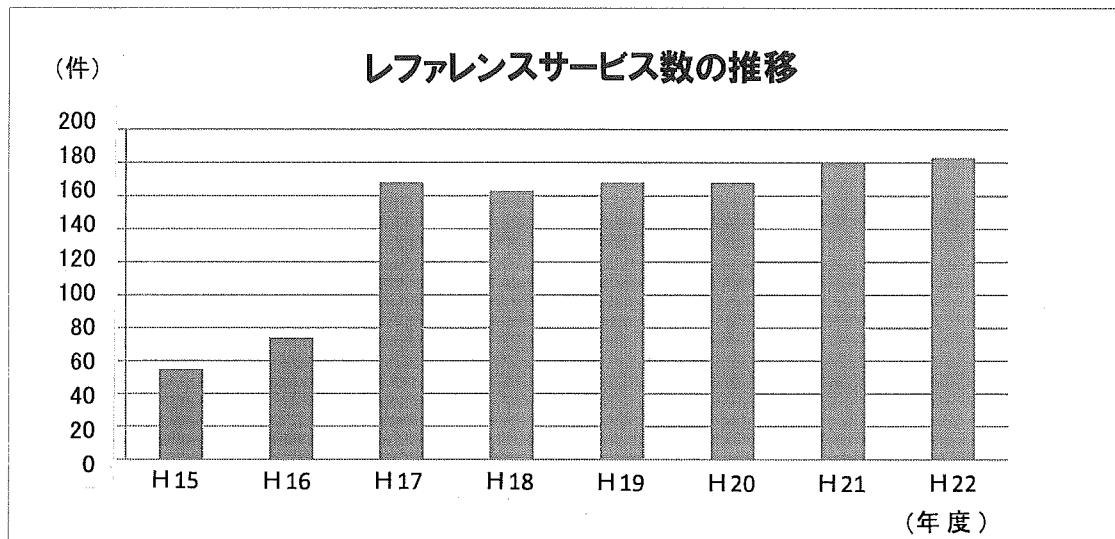
そこで、利用者の窓口やWebでのリクエストに的確に対応し、市民ニーズに確実に答えることで、効率的図書貸出サービスができるものと考えています。



5 レファレンスサービス数

レファレンスサービス数は、平成15年度の55件から平成22年度の183件へ、ほぼ右肩上がりで増加しています。

今後は、レファレンス資料をテーマ毎等に整理し、迅速なレファレンスサービスができるよう努めていきます。

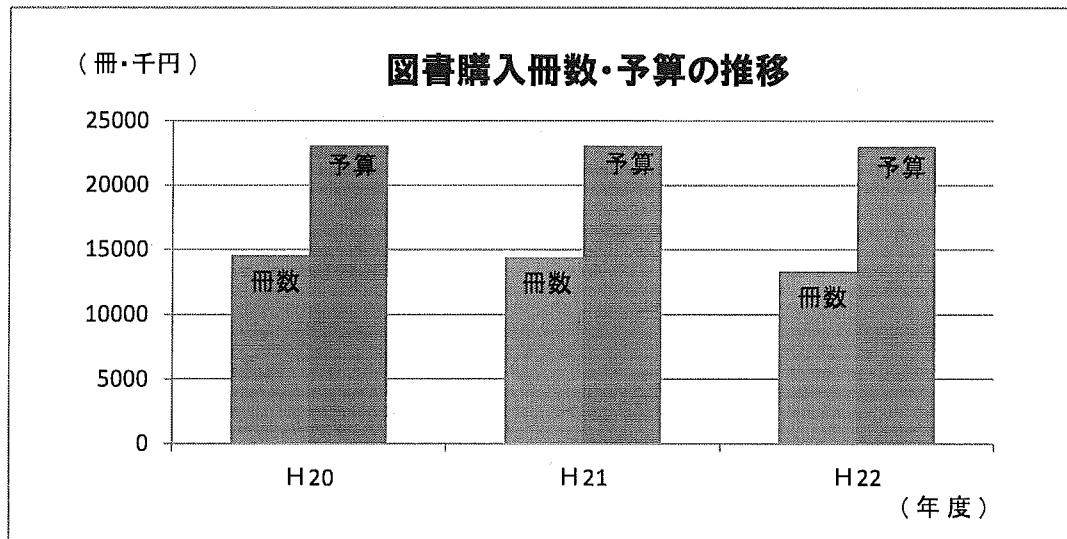


【本館のみ】

6 図書の購入冊数と予算

図書購入冊数は、平成20年度の14,560冊から平成22年度の13,318冊へ、少し減少しています。

図書購入予算は、平成20年度の23,074千円から平成22年度の23,026千円へ、ほぼ横ばいで推移しています。



【本館・千丁・鏡分館の合計】

7 平成23年度図書館の自主事業

	事 業 名	内 容	本館	せん ちよう 分館	かが み 分館
1	移動図書館車(14日/月)	市内各指定地を車で巡回しながらの図書の貸出	●		
2	図書館講座(30回)	文学・歴史・布絵本・しおり作り講座	●	●	
3	おはなし会(111回)	ボランティアグループによる読み聞かせ	●	●	●
4	こども読書週間行事(4~5月)	おはなし会、鯉のぼり・兜作り、特設展示等	●	●	●
5	読書週間行事(10~11月)	特設展示コーナー、おはなし会、クイズラリー等	●	●	●
6	ハッピーブック事業(41回)	7ヶ月検診の親子への読み聞かせ体験事業	●	●	●
7	童話発表大会(7月ハーモニーH)	小学生による童話暗唱大会	●		
8	ビデオ放映会(12回)	子ども向けアニメ・大人向け名作映画上映会	●		●
9	七夕おはなし会(7月)	絵本読み聞かせ、おはなし会、パネルシアター等	●		
10	七夕展示	七夕飾り・関連図書の展示	●		
11	クリスマスおはなし会(12月)	絵本読み聞かせ、おはなし会、パネルシアター等	●	●	●
12	クリスマス図書展示	クリスマス関連の幼児・児童図書の展示	●		
13	熊本弁カルタ大会(1月)	熊本弁カルタを使ったカルタ大会	●		
14	文学散歩(2月日帰り)	貸切りバスでの文学ゆかりの地の訪問(日帰り)	●		
15	雛祭りおはなし会(3月)	絵本読み聞かせ、おはなし会、パネルシアター等	●		
16	特設コーナー設置(9回)	テーマ毎のお奨め図書の紹介	●		
17	読書感想画コンクール作品展(12~1月)	小中学生の入賞作品の展示	●		
18	布絵本展示	ボランティアグループによる布絵本の展示	●		
19	赤ちゃん広場(読み聞かせと親子体操)	赤ちゃん向けのおはなし会		●	
20	たのしい絵本展	絵本コンサート、布絵本・おもちゃの展示、工作等		●	
21	一日図書館員体験	図書の貸出・返却、修理、書架の整理体験事業		●	
22	図書館まつり(8・3月)	おはなし会、参加型のイベント、リサイクル図書市		●	●
23	おはなしボランティア研修会	ボランティア向けの研修会		●	
24	おはなし隊キャラバン(5月)	講談社の全国訪問おはなし隊のキャラバン			●
25	工作教室(5・7月)	子ども向け工作教室			●
26	ちぎり絵教室(12月)	ちぎり絵の作成体験教室			●
3館合計延べ39事業				18	11
					10

I 基本方針

八代市立図書館は、昭和60年6月に、現在の場所に移築以来、26年が経過致しました。

その間に、蔵書数も約5万冊から約25万冊（せんちょう・かがみ分館を含むと約35万冊）へ増加しており、利用者も約14万人から約30万人へ増加しています。

これらのことから、図書館の市民サービスについては、ある程度向上が図られたきたものと言えます。

しかしながら、現在においては、市民のニーズの多様化に伴い、図書館サービスも多角的に市民のニーズに応えていく必要が生じています。

そこで、本図書館においては、それらの多様な市民のニーズと現状を踏まえて、市民に親しまれ、市民の生涯学習及び文化活動の目的達成に貢献できる図書館づくりを目指すことが肝要であると考えています。

本図書館は、このような役割を果していくために、次の4つの事項を基本方針とし、図書館運営を進めていきます。

1 郷土を拓く人を育む図書館

2 市民のニーズに応える図書館

3 八代の文化を支える図書館

4 市民協働による図書館

II 運営方針

1 郷土を拓く人を育む図書館

図書館の役割として、幼児から大人まであらゆる世代の読書活動、学習活動や調査研究活動等に対応したサービスを提供することにより、郷土八代を拓く人材の育成を支援します。

(1) 読書活動の推進

子ども読書週間（4月～5月の2週間）及び読書週間（10月～11月の2週間）等を通じて読書活動の啓発及び推進を図ります。

① 読書活動の場及び機会の提供

市民が気軽に読書に親しめる場所を提供します。また図書館の自主事業やボランティア活動事業及び移動図書館車等をとおして、読書に親しむ機会の提供を図ります。

② 自主事業による読書活動の啓発及び支援

図書館の自主事業の実施をとおして、市民の読書活動の啓発及び支援を行います。

【童話発表大会、図書館講座（文学・歴史・布絵本・しおり作り等）、子ども読書週間行事、読書週間行事、おはなし会、文学散歩、ハッピーブック事業、子どもビデオ上映会、名作映画上映会、読書感想画コンクール作品展、くまもと弁カルタ大会、特選図書コーナーの設置、布絵本展示等】

(2) 学習機会の提供

市民の生涯学習を支援し、さまざまな学習機会の一助となるよう、自主事業の実施や学習の場の提供を行います。

① 自主事業による学習機会の提供

図書館講座（文学・歴史・布絵本・しおり作り等）、文学散歩、名作映画上映会、特選図書コーナーの設置等をとおして、市民へ学習の機会を提供します。

② 学習の場の提供

市民の自己学習を支援するため、学習コーナーである青少年コーナーや児童コーナーを学習の場として提供します。

(3) 調査研究資料の提供

市民の専門的調査研究活動に対応できるようレファレンス室の資料を整備し、市民のニーズに対応した資料提供を行います。

また、昭和26年からの新聞やマイクロフィルム化した昭和17年からの新聞及び松井家文書の資料を閲覧に供します。

(4) 子どもの読書活動の推進

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、未来の八代を担う子どもの読書活動を推進します。

① 子どもの図書の充実

児童図書や絵本の蔵書の充実を図り、児童コーナー、絵本コーナーやお話しコーナー等を設置し、親子が楽しく触れ合える環境づくりに努めます。

②子どもの読書活動の推進

熊本県の「肥後っ子いきいき読書プラン」に沿った「八代市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進を図ります。

③自主事業による子どもの読書活動の推進

童話発表大会、おはなし会、ハッピーブック事業、子ども読書週間行事、子どもビデオ上映会等の実施をとおして、子どもが読書に親しめる機会を提供し、子どもの読書活動の推進を図ります。

2 市民のニーズに応える図書館

多種多様な市民のニーズに応えられるよう図書館運営の改善を行い、市民サービスの充実を図ります。

(1) 利用機会の充実

市民の読書活動及び情報収集活動に対応するため、図書館開館日の拡充等、利用機会の充実を図ります。また、3館（本館、2分館）が連携した図書貸出しサービスの充実及びその広報に努めます。

①開館日の拡充

現在の休館日である定例休館日（週1回）、整理休館日（月1回）、祝日や蔵書点検のための休館日（年1回2週間）等を見直し、市民のニーズに合った開館日の設定を図ります。

②図書館サービスの広報の充実

「広報やつしろ」、FMやつしろ、図書館だより「コスモス」やホームページ等をとおして、市民への図書館サービスの広報の充実を図ります。

③3館連携による図書貸出サービスの提供

本館、せんちょう分館、かがみ分館の3館が連携し、予約及びリクエストに応じた図書の運搬を行い、迅速な図書貸出サービスを提供します。

また、同様の連携により、3館のどの館でも返却できるサービスの提供を行います。

④窓口及びWEBによる図書貸出予約サービスの提供

本館、せんちょう分館、かがみ分館のみならず、他市町村及び他県の図書館の図書を窓口及びインターネットにより貸出予約できるサービスを提供します。

また、窓口及びインターネットによるリクエストに応じた図書の貸出サービスを提供します。

(2) 蔵書の充実

市民ができるだけ多くの図書を活用できるようニーズの高い図書やリクエストによる図書を備えて、蔵書の充実を図ります。

①蔵書の拡充

貸出し傾向や市民からのリクエストに基づく図書及び専門的な意見を参考に選書した市民の幅広いニーズに応える図書を備え、提供します。

また、障がい者や外国人が利用しやすい図書の整備に努めます。

②リクエスト(窓口及びWEB)による図書の提供

窓口及びインターネットによる市民リクエストの図書を備え、提供します。

(3) レファレンス資料の充実

レファレンス室の資料を整備し、市民の情報収集に応えられるようにします。

① 資料(紙資料・視聴覚資料・電子資料)の拡充

図書資料、新聞資料、マイクロフィルム資料、視聴覚資料、電子資料を整備し、閲覧に供します。

② 資料の効率的提供

レファレンス室の各種資料を、市民のニーズに応えられるようテーマ毎に整備し、迅速に資料提供できる効率的な運用を目指します。

(4) 遠隔地サービスの提供

図書館から遠い距離にある遠隔地の市民への図書提供を図ります。

① 遠隔地(坂本・東陽・泉)へのWEB予約サービスの提供

遠隔地である坂本・東陽・泉地区の市民へ、インターネット予約及び移動図書館車を活用した図書の貸出サービスを行います。

(5) 他図書館との連携サービスの提供

市内の学校図書館及び公民館図書室や他市町村図書館と連携した図書サービスを提供します。

① 市内の学校等及び公民館図書室との連携したサービスの提供

市内の幼稚園、保育所、小・中・特別支援学校、高校や大学と連携し、団体貸出しによる図書の提供を行います。

また、地区公民館図書室と連携し、図書の提供を図ります。

② 他市町村図書館等と連携したサービスの提供

他市町村図書館及び他県図書館と連携し、相互に図書を貸借し、市民のリクエストに応えるサービスを行います。

3 八代の文化を支える図書館

市民の文化活動に必要な参考資料や文化活動の機会を提供したり、親子の触れ合いの機会と場所を提供するなど、八代の文化を支える図書館を目指します。

(1) 文化創造機会の提供

レファレンス室や郷土資料コーナーにおける八代の歴史及び文化に関する資料の提供や自主事業の文学散歩及び図書館講座等の実施をとおして、文化創造の機会を提供します。

(2) 各館(本館・分館)毎の特色あるサービスの提供

本運営方針の基本方針に基づき、本館と2つの分館が、密に連携を図るとともに、それぞれ特色あるサービスや市民の文化活動を支援するサービスを提供します。

① 本 館

専門的参考資料を整備し、本市の中核的役割を担う図書館として、レファレンスサービスの充実に努めます。

② せんちょう分館

児童図書や絵本の蔵書を充実させ、児童コーナーや近隣の公園を活用し、親子が楽しく触れ合える機会と場所のサービス提供を図ります。

(3) かがみ分館

かがみ分館と同じ建物内にある文化ホールと連携し、読書活動の推進や文化活動の機会を提供するサービスを目指します。

(3) 文化団体と連携したサービスの提供

各種文化団体と連携した自主事業の実施やレファレンス情報の提供を図ります。

(4) 博物館・文化まちづくり課・図書館の連携による資料提供サービスの充実

博物館・文化まちづくり課・図書館が連携し、それぞれが所有するレファレンス資料及び情報を、市民のニーズに沿って効率的に提供します。

4 市民協働による図書館

市民との協働による図書館づくりを目指します。

(1) ボランティア団体等の活動の支援

図書館等における活動が活発に行えるようボランティア団体等を支援するとともに、育成を図ります。

(2) 市民協働による図書館サービスの提供

市民のボランティア活動によるお話し会、子ども読書週間行事、布絵本の展示、図書の配架（書架への返却）や図書の修理等の図書館サービスへの市民参加を進めます。

(3) 自主事業への市民参加

童話発表大会、図書館講座（文学・歴史・布絵本・しおり作り等）、子ども読書週間行事、読書週間行事、おはなし会、文学散歩、ハッピーブック事業、子どもビデオ上映会、名作映画上映会、特選図書コーナーの設置等の自主事業への市民参加を促し、文化活動の楽しさが実感できるよう努めます。

(4) 図書館運営への市民参加

図書館運営に関し、今後は、市民の参加や民間活力の導入等を進め、より良い図書館づくりを目指します。